

第5回みんなで朝ごはん事業検討会 会議録

1 日 時

令和元年 12 月 17 日(火)18 時 30 分～20 時 10 分

2 会 場

磐田市役所本庁舎4階 大会議室

3 出席者

検討会メンバー14 名

村上 勇夫(磐田市自治会連合会 会長)
三浦 靖男(向笠地域づくり協議会 会長)
伊藤 富次夫(豊浜地域づくり協議会 会長)
吉添 繁雄(南交流センター センター長)
大杉 達也(豊岡中央交流センター センター長)
山下 重仁(磐田市社会福祉協議会 事務局長)
吉野 武夫(中泉地区地域づくり協議会福祉部会 部会長)
三上 和代(南御厨地区社会福祉協議会 会長)
松井 文孝(磐田北小学校 校長)
清水 孝彦(竜洋西小学校 校長)
萩田 鎮哉(磐田中部小学校 PTA 会長)
堀内 大義(竜洋東小学校 PTA 会長)
大橋 弘和(青城小学校 PTA 会長)
大畑 邦子(豊岡北小学校 PTA 会長)

事務局6名

鈴木 雅樹(秘書政策課長)
伊藤 豪紀(秘書政策課 部付主査兼政策行革推進グループ長)
松下 公彦(秘書政策課政策行革推進グループ 主任)
鈴木 基輝(秘書政策課政策行革推進グループ 主任)
岡田 佐栄子(こども未来課 部付主査兼こども支援グループ長)
松井 信治(学校教育課 主幹兼指導グループ長)

傍聴者5名

4 内 容

(1) 開会

(2) 検討「検討会における意見とまとめについて」

事務局

(資料 1 を説明。)

メンバー

みんなで朝ごはん事業に対して、学校はどう考えているか。学校側から実施の希望はあるのか。

事務局

教育委員会及び学校は、行政が事業の調査・研究をしていることは承知している。地域の手上げにより、具体的な場所や方法が出てきた段階で、教育委員会・学校に説明、協議していくことを考えている。

メンバー

地域が実施する方向で進んでも、学校側から必要とされないのでは辛い。

事務局

- 地域の負担、教員の負担があるとのこと意見もいただいている。そのあたりも調整し、ご理解いただくことは必要だと考えている。
- 地域の方にも、強制ではないので、賛同いただける方に具体的な実施方法について説明し、調整していく。その方たちが実施を希望する学校には、行政からも説明に行かせていただこうと思う。

メンバー

- 目的にある「たくましい子どもたち」は、教育委員会の方針との整合はとれているか。
- 朝ごはんを食べずに登校した児童の調査は、どのような調査か。

事務局

- 「磐田の教育」に「たくましい磐田人の育成」という言葉がでてくる。たくましいには様々な意味が含まれるが、整合はとれていると考えている。
- 調査は、県教育委員会が毎年実施しており、全小中学生を対象とした調査の結果。

事務局

(資料2 を説明。)

メンバー

- 来年度からスタートすると思うが、いつスタートするのかが見えない。
- 担い手の募集が先か、実施校の選定が先なのか、選定は丁寧にやっていく必要があると思う。

メンバー

- 担い手が決まっても、学校が受け入れできるのかが心配。
- 実施にあたり、効果はあると思うが、いろいろと調整が必要な点が出てくる。保護者の立場からすると、子どもや保護者にどう説明するのか、登校の安全の確保方法、学校設備の借用、地域との調整が必要だと思う。

メンバー

担い手が事業を実施していくなかで、自分たちの想いや希望が生じてくると思う。そこにストップをかけてしまうと、担い手のやる気やモチベーションに関わる。地元農家やスーパーの協力について、柔軟に運用できるようにお願いしたい。

メンバー

- 「みんなで朝ごはん事業」に参加する子が、周りに茶化されるようなことがないように配慮をお願いしたい。
- 登校の安全確保をお願いしたい。

メンバー

- 担い手と実施校どちらが先になるのか考える必要がある。
- 保護者への説明は、第1回検討会で放映したDVDを流すとわかりやすいと思う。

メンバー

- 今回の資料は、目的が明確になり良い事業になったと思う。
- スタート時期をいつにするのかが検討材料。理解不足のまま急いで進むと問題が起きる可能性がある。
- 教育委員会、学校、PTA が目的について共通認識するために、説明して理解してもらう必要がある。
- 教育委員会や学校ではどういったことを心配しているのか、具体的に聞いてみたうえで、お互いがもう少し突っ込んだイメージができれば、スムーズにいくのではないかな。
- 目的である「地域全体で子どもを育むこと」は、今の世の中で一番求められていること。それを具体化する1つの手段として朝ごはんはありだと感じた。

メンバー

○いい形で進むことを望んでいる。

○どうやって進めていくかということだが、必ず批判する方は出てくる。そこを乗り越えて実現に至るためには、賛同者・理解者を多くすることが必要。学校やPTAはもちろん、地域づくり協議会や各種団体、地域を担う団体への丁寧な説明により理解者を増やしていくことが大切。

○マクロ的に見れば、ほんの一部の子に対する税金の投入のように見える。しかし、今の世の中は全てがそうではない。教育の場では、「一人ひとりに応じた…」という言葉はいっぱい出てくる。朝ごはんを提供することは、つい忘れられがちな課題への対応と捉えている。そのような形で実施すればよいと思う。

メンバー

○朝ごはんをとることの大切さ、規則正しい生活習慣の定着、学力の向上が目的であり、非常に良い事業だと思っている。

○モデル的に実施すると思うが、関係する方たちの理解を十分にいただくなかで、事業が長続きするようにしてもらいたい。

メンバー

○「朝ごはん」と「目的」が離れすぎているように感じる。目的は良いが、効果と書いている部分は「狙い目」。目的を達成するためのいくつか事業があるなかの1つとして、「健康的な生活リズムや食習慣」にスポットをあてたという形にするとうまくいくのではないか。

○「1. 運営の担い手の確保方法」は、これまでの検討会でも、「やれる範囲でみんなでやる」という意見だった。この方法は1つのガイドラインという形にしないと、やり方を縛られる形になってしまう。ガイドラインもないと実施できないので、担い手の希望を聞きながら進めていきます、という表現の方が良いと思う。

メンバー

○視察先に行った際に、子どもたちと一緒に朝ごはんを食べた。その時の子どもたちの笑顔がとても印象的だった。このような事業が磐田市で実施するならば、掲げられた効果が得られるような取組みにしてもらいたい。

○調査の詳細などバックデータをきちんと持っていてもらいたい。例えば、どの地区で食べていない子が多いのか、地区を絞っていくのも1つの方法。調査での課題を共有して、教育委員会と一緒に進めていくことが大切。

メンバー

○現場から声が上がって取り組む事業ではないことから、目的がはっきりしないと行政が説得してやっていかなくてはいけないような、行政主導の事業に見えてしまうことが心配。

○事業を進めるには、共感者をもっと求めることが必要。担い手は少人数でも、地域とし

て子どもを育てていくんだという共感者を作っていないと、行政主導の印象が残ってしまう。

メンバー

- この事業は地域全体でということが大切。個人で取り組むということではなく、地域で、ということであれば、当然地域づくり協議会もはいると一体感がでない。やるとなったら、地域づくり協議会も一緒にないと、後々の人集めにも影響がある。
- 地域、学校、保護者、行政みんなで取り組まないと、一部の人だけで実施するようでは学校も保護者も理解してもらえない。
- 学校備品等の借用は、先進地では学校のものは使っていなかった。学校も断りづらいと思うし、授業に影響があるようではいけない。
- やり方としては、無理のある中でやるのではなく、最小限度の中でやっていけば、それほど批判はないと思う。

メンバー

- 担い手の確保ができれば、調理はそれほど大変ではないと思う。
- 「まずやってみる」ということを考えると、初めから週1回ではなく、年4回とか5回でもよいのではないかと思う。
- まず、モデル地区として1か所進めていくことは当然だと思うが、できれば、皆さんに理解していただいたうえで長く続いてほしいと思うと、1か所ではなく、市全体に広めないと意味がないのではないかと思う。

メンバー

- 子ども、保護者の不安をどう取り除いていくのが大切。目的の周知はもちろんだが、参加することによる周りの目や、ほとんどの学校が集団登校であるなかで、登校の安全確保も必要。地域の見守りボランティアの協力があるなかで、登校の時間がずれることになる。
- 教育委員会、学校だけでなく、子ども、保護者、地域の理解全てを含めて調整していくことが必要。

事務局

PTA や学校関係の方からは通学の安全確保についての声があった。十分に理解できる。事業をすすめるにあたっては、行政、学校、保護者だけでできるものではない。地域やボランティアなど多くの方の理解が必要。その調整は必要。行政としても賛同者を増やす努力が必要だと考えている。

メンバー

食材等の調達方法では、補助金(交付金)で賄うとされている。しかし、この事業の目的のためには、地域全体で子どもを育てるという意識を、地元農家やスーパーにもある程

度強くもってもらい、将来的には補助金に頼らない運営が必要だと思う。

事務局

- 地産地消や地元の農家やスーパーにも協力いただくことも徐々に進めていくことも必要だと思う。記載は、初めての事業となるので、まず初めはということで記載させていただいた。
- 働きかけを関係各所にという意見をいただいたが、磐田市では初めての事業となるので、各所への丁寧な説明をしていきたいと思う。また、一人でも多くの理解者を得て進める事業だと考えているので、当然、子ども、保護者、学校、教育委員会との調整はさせていただき、みなさんの理解を得たうえで、「さあやろう」となるような環境づくりのために最善の努力をさせていただく。
- 「資料2 検討会におけるまとめ」は、あくまで1つの方法。担い手が見つかった中で、その方がやりやすい方法を話し合いながら進めていくものだと考えている。
- 「行政主導に見える」というご意見については、行政からの、そのように見えない説明が必要だと思う。この事業は、目的に対して地域の理解、賛同が得られ、自発的・前向きに取り組みたい方が出てきてから実施するものだと考えている。
- 食材の調達は、現状では、参加人数が見込めず、農家の方にご協力いただくことで食材を余らせることも考えられるため、まずは、補助金から始めていくとさせていただいた。将来的には、地域全体で子どもたちを育てていくということからも、地域の農家の方の力も借りながら、補助金に頼らない運営が理想だと考えている。
- 市全体で取り組んだほうがよいのではという意見については、来年度はもう1歩踏み込んでいきたいと考えているが、あくまで、地域の方の賛同を得たうえで、地域の自発的な手上げが必要だと考えている。

メンバー

「1. 運営の担い手の確保方法」について、まさに地域全体への声掛けだと思うが、担い手の手上げと、地域への声かけはどちらが先になるのか。

事務局

どちらが先ということはない。地域での機運の高まることと地域内での声掛けは、同時進行するものだと思う。地域内で担い手を確保するにあたって、趣旨や事業の説明が必要であれば、行政がサポートしていきたいと考えている。

メンバー

担い手が個人で取組みの体制を固めたうえで、後で地域に知らせるのでは、その後の地域内の協力者の確保などが難しくなるのではないかと思う。

事務局

- 実施する地域が決まるのであれば、その後に地域の中で声かけをさせていただき担い

手を確保することになる。

○行政も協力しながら人材の確保に努めていきたい。

○視察した大阪では、人材と資金、場所が要件であると言われている。また、地域に根ざしたネットワークと学校の理解が必要だとも言われている。いろいろ課題があると思うが、ひとつひとつ理解を得ながら進めていきたい。

○地域によって事情もあると思うので、地域に合わせた形で進めていくと考えていただきたい。一番よい形になるように支援していく。

メンバー

今の青少年健全育成の取組は中途半端だと感じている。一番大事なこと。1つでもいいからきっかけをつくって示すことが大事。家庭教育・親教育の必要性が叫ばれているが、基本的に人間関係の希薄が一番の問題だと思う。その1つのきっかけにするんだと、事業を周知するれば、スムーズにいくと思う。

事務局

地域と子どもを触れ合う機会がすこしでも多くなり、顔がわかる関係となることは非常によい教育環境だと思う。地域の関係づくりにも関わってくる事業だと感じている。

メンバー

実施に向けたタイムスケジュールはこれまで検討したことはなかったと思うが。

事務局

スケジュールについては、実施までに一定の期間が必要だと考えている。関係者との調整を考えると、仮に来年度から実施としても、4月からというイメージは持っていない。地域によって事情が異なる中で、ある程度の目標は持ちながらも一定の準備期間を設けたうえで、整ったら実施するをしたい。

メンバー

そろそろ、みんなに知らせていくことも必要ではないか。

事務局

行政としても広げていきたいと考えている。前向きに検討を考えている地域については、資料に書ききれないような、賛同者を得られるような周知の仕方地域と一緒に考えていきたい。

メンバー

関係者に浸透させることは必要。趣旨は悪くない。広報や PR、進め方は非常に重要な要素。固く考えすぎに柔軟に考えていただきたい。

事務局

連絡調整の重要性は肝に命じ、丁寧な説明と共感者を増やすことは、最大限の力点をおいてやらせていただきたい。

メンバー

地域の了解を得たうえであればよいが、地域を代表して来ているわけではないので、私がやりましょうというわけにはいかない。他のことにも差し障りが出てもいけない。

事務局

- 前回の検討会でもメンバーから「興味をもっている」という前向きな意見をいただいたが、その方自身が地域を背負って決断できる立場ではないことは理解できる。
- 地域で前向きに検討できるようであれば、説明にうかがわせていただき、賛同者を得るような支援は考えている。

メンバー

少し時間が必要。現実味を帯びてくると、根回しや事前の調整が必要。

メンバー

あまり固く考えずに、地域づくり協議会などにどんどん入っていったほうがよいと思う。入って意見をもらうことで、もっと良い意見がでることもある。

事務局

- 説明の機会は多いほうがよいと思う。
- それぞれの抱えている団体のなかで、前向きに検討したい、興味があるといった声があるようであれば、ぜひ説明に伺わせていただきたい。

(3) 閉会

以上